臘扇忌法要御案内

――清沢満之先生　一一四回忌法要――

新緑の候　皆様におかれましては、ますます為法精進のこととお慶び申し上げます。

さて、平成二十三年の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の特別記念事業として、平成十六年に始まった真宗本廟両堂等の御修復も、平成二十七年末をもって完了し、本年三月三十一日には御本尊の還座式が執行されました。十一月二十・二十一日には真宗本廟両堂等御修復完了奉告法要が本山にて予定されています。ようやく明治の再建（明治二十八年）当初を彷彿させる状態に戻った真宗本廟を仰ぎ見ると、大谷派にご縁をいただく私たちには、ただ慶喜の念が呼び起こされるばかりです。

しかし、再建されたばかりの両堂を拝しつつ、明治三十年『教界時言』誌上で「試に問ふ大谷派なる宗門は何の処に存するか」と世に問われたのが清沢満之師でした。師は、大谷派なる宗門とは「京都六条の天に聳ゆる巍々たる両堂と全国各地に散在せる一万の堂宇」でもなく、「かの三万の僧侶と百万の門徒」を直ちに指して大谷派なる宗門とするのでもないといいます。荘厳な伽藍や、統計上の人員数を大谷派なる宗門の本質とはせず、「大谷派なる宗門は大谷派なる宗教的精神の存する所に在り」と、大谷派に連なる私たち一人一人が、宗祖親鸞聖人の説かれた「真実信心」という宗教的精神を獲得するところにこそ、大谷派なる宗門が顕現するとお示しになったのです。両堂等の御修復を終え、更に本山を護持・相続し、「大谷派なる宗門の盛衰」を荷っていくべき私たちにとって、この清沢師のお言葉は、今後も基本的な指針となっていくことでしょう。

両堂等の御修復が完了した本年、大阪での臘扇忌法要は、大谷大学教授の加来雄之先生に記念講演をお願いしております。願わくは一人でも多くの有縁の方たちと共に、先生のお話を拝聴してまいりたく存じます。皆様のご来聴を謹んでお待ちしております。合掌

平成二十八年五月一日

難度会会員一同

住職・教会主管者及び関係各位

記

日　　時　**平成二十八（二〇一六）年六月三日（金）午後六時～八時半**
場　　所　**難波別院　同朋会館講堂**
記念講演講師　**加来雄之師（大谷大学教授）**
参　加　料　**千円（記念品代含む）**
主　　催　難度会
後　　援　難波別院

難度会会員　稲垣直来、大橋恵真、奥野賢（事務局）、小谷淳也、後藤裕司、竹中光史、竹中慈祥、玉井久之、当麻宏文、中尾哲、長洲真史、難波教行、西受秀文、橋田尊光、橋本知良（代表）、秦真哉、林一信、原田祐生、藤井紀安、前田慈之、松井聡、間野功雄、森川徹、安間観志（会計）、山雄竜麿、山口知丈、頼尊恒信

※お問い合わせ先　　難度会事務局　念通寺内（奥野）〇七二―二六五―二一二一まで